

カジノ反対の市民の声を政治に反映させよう。3/23市民大集合に参加を！

本会は、同封の署名活動に取り組んでいます。署名活動は、当分の間続けますが、この2月22日に第一次分として府知事に提出しました。その署名活動と上記の3/23集会の案内を兼ねて、現在、街頭宣伝を実施しています。

2月2日の千里中央での街頭宣伝活動では51人の署名が集まりました。素通りする方もおられますが署名される方も多く、カンパして下さる方もおられました。今後以下の日程で街頭宣伝活動をいたしますので、時間のある方はぜひ、ご参加ください。

カジノ反対の市民の声を政治に反映させよう。街頭宣伝活動にご協力を。

【日時】3月2日（土）14:00～15:00

【場所】阪急電鉄 曾根駅前

【日時】3月7日（木）17:00～18:00

【場所】阪急電鉄 蛭池駅前

【日時】3月10日（日）11:00～12:00

【場所】北大阪急行 桃山台駅前

【日時】3月13日（水）17:00～18:00

【場所】阪急電鉄 服部駅前

**高校生への配布を目的にした府市IR推進局が違法なリーフレット作成に
配布差し止めと印刷費の弁償を求め府監査委員会に住民監査請求**

カジノ誘致の準備を進めている府市IR推進局は昨年末、「将来、ギャンブルにのめり込まないために」と題したリーフレットを作成し、高校生、支援学校生に配布しました。

このリーフレットは表題の通り、ギャンブル依存症の予防のため作成されたようですが、「ギャンブルをしないことが最大の予防」です。しかし、このリーフレットでは「ギャンブルは、生活に問題が生じないよう金額と時間を決めて、その範囲内で楽しむ娯楽です。」と、逆にギャンブルを「娯楽」と位置づけています。

このリーフレットにはギャンブルが刑法185条で禁止された犯罪であることも書かれていません。さらに、このリーフレットにはギャンブル依存症に

なった場合の症状を記載していますが、「睡眠や食事がおろそかになり健康を害する」、「嘘をついて家族との関係が悪化する」、「隠れて借金するなどお金を工面する方法を選ばなくなる」という軽症例のみを列挙し、家庭崩壊、窃盗、強盗、自殺などの重症例については記載されていません。

このようなリーフレットを高校生などに配布することは極めて有害です。リーフレット作成のために税金を使うことは、公教育の目的を逸脱するばかりか税金の無駄遣いそのものです。

そこで、私たち、大阪カジノに反対する市民の会は井上善雄弁護士の協力を得て、住民監査請求を大阪府監査委員に提出しました。

請求内容はリーフレットの配布中止と、このリーフレット作成費用 382,500 円を公費で支出するのは容認できないとして、当該費用を知事・大阪市長・府市 I R 推進局らに費用弁済を求めるものです。

住民監査請求は昨年 12 月 28 日、本会のメンバーを含む府民 75 名の名前で大阪府監査委員

に提出しました。そして、2 月 6 日に大阪府監査委員室で、意見陳述が行われ、本会から 5 名が意見陳述しました。

今後、**監査委員会は審査のうえ、2 月 26 日までに監査結果を発表する予定**です。

本会は引き続き、この違法文書について監視を強めていきます。

11月25日に、なんであかんカジノシリーズ学習会を開催しました

「なんで あかん カジノ」シリーズ学習会第一回を、昨年 11 月 25 日、豊中市立福祉会館で開催しました。

集会の冒頭、**本会代表の西澤信善は、本会が超党派の市民がカジノ反対の 1 点で結集したことや、ギャンブルで地域振興ができないこと、大阪万博が決定したことに関して、万博は半年だがカジノは半世紀続くことを考えていかななくてはならないと**伝えました。

講演のトップである武田かおり氏（NPO 法人 A M ネット事務局長）は、「**万博・I R カジノより災害対策を!**」との演題でカジノ会場予定地の問題点について説明しました。会場となる舞洲が、もともとは廃棄物の処分場であり、まだ埋め立てが続き沈下している状態で、工期上の問題をかかえていることや、今後も予想される大型台風ばかりでなく、津波のリスクがあることを関西空港での被災状況（台風 21 号）などと比較して力説されました。関西空港は廃棄物でなく安定した土砂で埋め立てられています。さらに新たな廃棄物処分場の確保が必要となることから、**地盤が極めて不安定な夢洲に資金を投入するのではなく、もっと防災に投資すべき**と講演されました。

基調講演の松尾匡氏（数理経済学・立命館大学経済学部教授）の演題は「高齢化時代の IR による介護不足」でした。松尾氏はカジノには社会的弊害があるが、カジノを含む I R 会場内で雇用を生み出す結果、本当に必要とすべき「医療・介護」という分野での雇用を浪費してしまうことでした。

また、カジノがかかえる他の人（自分以外）はどうでもよいという発想は商人道に外れるし、商



人は戦争、麻薬、ギャンブルに手を染めてはならない、カジノをディズニーランドのように考えてはならないとお話になりました。

また、カジノでの経済成長は論外であり、健全な成長には適切な財政出動は必要とお話になりました。

この学習会では、ストリートミュージシャンの大阪ヒロさんに出演していただきました。披露されたメッセージソングも心打つもので、そのメッセージは「カジノなんかいらぬ。カジノなんか必要ないぜ きれいなこの国に きっと似合わないぜ」でした。かつて「美しい国 日本」という書籍がありました。**カジノは「美しい国」にも似合いません。**

この「なんであかんカジノ」シリーズ学習会は、3 月に 1 回程度開催する予定ですが、**3 月 23 日に大集会を開催**しますので、その後、次の企画を検討することになっています。テーマにリクエストがありましたら、ご連絡ください。

府市IR推進局に質問

現在、大阪府と大阪市は府市 IR 推進局という部局を作り、夢洲にカジノを含む統合リゾート (IR) を誘致する準備を急ピッチで進めています。

しかし、夢洲は産業廃棄物の最終処分場で、まだ埋立の真っ最中です。ここにカジノや万博を誘致すれば、基盤整備やアクセス整備で多額の税金投入が余儀なくされるとともに、地盤沈下、津波被害、土壌汚染などの深刻な問題が発生します。また、カジノそのものが持つ経済や暮らしに対する悪影響も起こります。

これらの諸問題を大阪府と大阪市はどう考えているのか、質問状を提出し、12月4日に府市 IR 推進局 (咲洲) に回答を聞きに行きました。しかし、回答はマイナスを考えないもの。

そこで、本会は再質問要望書を知事に提出し、引き続きカジノを含む IR の問題点を追及していく計画です。

(この項は、本会のホームページで詳しく報告しています)

「モナシュ大学 Charles Livingstone 教授講演会」参加レポート

12月7日に大阪いちょうの会が開催した「モナシュ大学 Charles Livingstone 教授講演会」について報告します。演題は“世界一のギャンブル大国オーストラリアのギャンブル対策の現状と課題に学ぶ”でした。

オーストラリアの依存症患者は、(1) 重度 (成人人口の1%) (2) 中程度 (同3%) (3) 軽度 (同9%) の患者がおり、それぞれの患者一人当たりにつき、6人、3人、1人、の患者本人と同程度の影響を受けるギャンブルに関係のない人間 (親族、友人など) がいる。トータルすると成人人口の25%以上もの人口が何らかの悪影響を受けていることになる。オーストラリアの現状を大阪に当てはめれば、195万人の成人府民が何らかの悪影響を被り、そのうち53万人が重度依存症に関わる問題に悩まされるということんでもない状況が想定される。気楽な依存症対策で事が済むと考えている行政は、このような警告にどう対処するつもりなのか?

1. ギャンブルによる歳入 (ギャンブル掛け金収入から払戻金を引いた額) はビクトリア州で58億ドル (約4650億円)、それによる税金は16億ドル (約1280億円)。一方、様々な社会コストを積算すると、約70億ドル (5600億円) となり、行政はそのうち、11億ドル (約800億円) を負担するのみで、あとは市民に

つけ回される。つまり、**社会コストの77%は市民が負担することになり、カジノ税金を全額市民に還付しても、なお市民はカジノ事業者に搾取されることになる。**(税金効果を強調する松井知事、吉村市長はどう考えているのか。税金が目的なら、なぜ市営地下鉄 (カジノ税金と同額の税金400億円) を民営化したのか?)

2. カジノの経済効果は初期のインフラ建設時に比べ、通常の運営時は人件費等のコストカットで大きな波及効果は期待できない。逆に周辺地域への負の経済効果が著しい。例えば、100万ドルをギャンブルに使いえば3つのjob(雇用)を生むが、同額を食事、レストラン等で消費していれば20以上のjob効果がある計算になり、**ギャンブルの経済効果を他の経済活動に比べ大きいと宣伝するのは欺瞞である。**

3. 公衆衛生学の専門家として、神経生理学者との共同研究を行い、各種ギャンブルの形態と依存メカニズムを調べたが、その結果、いわゆる責任ギャンブル (重度依存症は個人の責任、精神的欠陥という考え方) という**予防メカニズムは全く機能せず、ギャンブル事業者の逃げ口上にすぎないことが明らかになった。**(ギャンブル依存の最も効果的な予防法はギャンブル施設を作らないことである。)

あかんやろ!カジノ 市民パレードが御堂筋を意気高く行進



2月10日、女性にとつとワーク@おおさかやミナセン大阪などが呼びかけた市民パレードが御堂筋で行われました。本会はこのパレードに協賛参加し、「カジノあかん」「愛がないのにアイドル」「大阪は食い倒れのまち、行き倒れをつくってはあかん」との声をあげました。御堂筋ではたくさんの外国人観光客の注目を受け、「カジノあかん」を国際的にもアピールできました。

パレード終了後、なんば高島屋前で市民と野党6党のアピールが行われ、本会の堀田幹事が野党の議員とともに、「カジノあかん」を訴えました。

大阪カジノに反対する市民の会からのお知らせとお願い

①カンパと入会金納入のお願い

会の活動には印刷代、交通費、講師謝礼などかなりの資金が必要です。入会金1000円だけでは足りません。

そこで会に寄付をお願いします。入会金がまだの方は、下記のゆうちょ銀行振替口座に1,000円を振り込んでください。恐れ入りますが、振込手数料も負担してください。

口座記号番号 00920-8-323421

口座名称(漢字) 大阪カジノに反対する市民の会

口座名称(カナ)

オオサカカジノニハンタイスルシミンノカイ
他銀行から振込む際は下記を指定してください。

店名(店番)	預金種目	口座番号
〇九九店(099)	当座	0323421

②ホームページやフェイスブックの管理・更新の協力スタッフを募集しています。

③ニュースレター配布にご協力を

このニュースレターは、メール、ファックス、郵便、手配りなど、出来るだけ少ない経費で配布する予定です。そこで、パソコンメールを利用されている方はアドレスをお知らせください。ご近所の会員に手配りしていただける方は、ご連絡ください。会報編集委員も募集しています。

④入会者の勧誘にご協力を

「カジノ反対」の声を強く、大きくするために1,000人以上を目標に会員を募集しています。入会金1000円必要ですが、会費はありません。

会務報告(2月12日現在)

会員 275名

収入 357,516円

支出 209,406円

残高 148,108円